

議長就任記者会見／令和5年5月10日

○丸井議長

このたび、議員各位の御推挙により、第84代青森県議会議長に御選任いただきました丸井裕でございます。

身に余る光栄に感謝を申し上げますとともに、その職責の重さを痛感しております。

本県においては、コロナ禍がようやく落ち着きをみせつつあるものの、物価高騰や労働力不足、人口流出などの困難な課題が山積しております。

このような大変な状況ではありますが、今般の選挙で選ばれ、県民の皆様から負託を受けた議員各位と力を合わせ、また、執行部とも連携・協力しながら、課題解決に尽力してまいりたいと思います。

今後は、議長として、地方自治の二元代表制の一翼を担う議会に与えられた機能を十分に発揮できるよう、寺田副議長とともに公正で円滑な議会運営に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

○記者

これまで議員活動をされてきた中で特に印象に残っている場面、出来事を教えてください。

○丸井議長

一番印象に残っていることは、東日本大震災。あの日は予算特別委員会の途中で震災が起こり、帰りに議長室のテレビで停電等の姿を拝見しましたし、また、津波が来るところも映されていました。その後3日くらいしてから八戸に行って、あの時の悲惨さというものは非常にショックでありました。

それから議会として復興に対して我々も尽力したという思いもあります。

長い間復興に関わってきたという部分に関しまして、議員としても個人としてもやはり東日本大震災が私にとって一番大きな出来事であったと思っています。

○記者

座右の銘は。

○丸井議長

「和を以て貴しと為す」ということわざであります。皆さんご存じのとおり聖徳太子の17条の憲法の最初に書かれているもので、ロシアとウクライナの戦争もやっている最中ですので、やはりよく話し合って議論をして物事は決めていくべきだと。力、武力による解決を図るべきではないということもあってこれを選びました。

○記者

趣味があれば教えてください。

○丸井議長

趣味は、読書、料理、ツーリングです。ツーリングはバイクでございます。昔はバイク議連というものがあまして、もう少し活動が活発でしたが、この頃乗られる方が非常に少なくなりましたし、コロナ禍であってやっぱり集団で行動することができないということもあまして、あまりこの頃は乗ってません。ですが昔はバイクでツーリングしながらキャンプをするのが趣味でありました。これからは、どういう日程になるのかさっぱりわかりませんので、できるかできないかわかりませんが、やっていきたいと思っております。

○記者

キャンプの行先は県内ですか。

○丸井議長

いえ、県内はあまり多くございません。バイクはやはり長距離を走るものだと思っておりますので、できれば朝から晩まで走って、着いたところでキャンプをすると。昔は今ほどキャンプ場の人気がなかったものですから、いつでも取れるという状況にあったんです。この頃はキャンプが人気であまり取れないそうですが、昔はどこへ行っても取れましたから、行き当たりばったり出歩いていました。

○記者

一番遠いところだとどの辺まで行ったんですか。

○丸井議長

一番遠いのはやはり北海道でしょうね。北海道の一番てっぺんまで行きました。稚内ですね。

○記者

ちなみにバイクは大型ですか。

○丸井議長

はい、大型に乗っています。

○記者

冒頭、県政の課題で物価高騰や人口減少などをあげていただきましたが、特に丸井新議長が取り組みたい課題は、どのあたりになりますでしょうか。

○丸井議長

やはりなんといっても青森県にとって一番の大きな課題は、人口の減少。その中の1つに人口流出もあります。その2つに早急に取り組む必要があると思います。ただ、なかなかそう簡単には人口を増やすことは無理だという思いもありますので、人口減少に対してどのように県として対応していくのか、どういう環境づくりをしていくのかも我々は考えていかなければならないと思います。

○記者

この間までの議会では議会改革がいろいろ議論されましたけど、結果としては決まったものはなかったのですが、議会改革についてはどのように取り組んでいかれますか。

○丸井議長

議会改革に関しましては、これまでも、改選期ごとに、議会運営委員会や議会改革検討委員会等において、議会の効率的・効果的な運営や政務活動費の透明性の向上等について、種々検討を重ねて、順次、改革を行ってきております。

私は、県民に身近で信頼される議会、県民生活に役立つ議会を目指し、議員各位から意見を聞き、各会派等とも十分協議・調整を行いながら、議会改革を進めていきたいと考えております。

○記者

特に、議員定数、区割りが議論になっていましたけれども、そのあたり、議長としてはどのようにお考えでしょうか。

○丸井議長

議員定数等については、県議会の根幹に関わる重要なものであり、検討にあたっては、本県の人口の動向や市町村における広域連携等、様々な状況変化を踏まえながら検討を進めていく必要があります。

前の議会の時に、いろいろ検討いただきました。ただ、時間の制約等もあり、現状維持の結論に至ったと認識をしております。今後、三橋前議長から申し送りがあると思っております。

今回の任期では、これらを踏まえながら、各会派等と十分協議・調整を行いながら、次期一般選挙に向けて適切に対応をしていきたいと考えております。

○記者

区割りの見直しは、改選後のなるべく早い時期にやるべきだと会派から意見が出ていたと思うのですが、取り組むとすれば具体的なスケジュールは。

○丸井議長

これも各会派と協議をしながら、進めていかなければならないと思っておりますが、やはり今新人議員の方もたくさんいらっしゃいますので、その方々にもいろいろ勉強していただきながら、また、自分

の地域の実情をよく認識をしていただきながら、今後のスケジュール等は決めていきたいと思っております。

○記者

なるべく早い時期とか、そういう思いはあるんですか。

○丸井議長

三橋前議長から引継ぎを受けて、どのようにしていくかというのは各会派と協議させていただくことになるかと思えます。

○記者

先送りにならないように。

○丸井議長

ええ、それはならないようにしたいと思います。

○記者

今後の議会は20年ぶりに知事が交代して、新知事と向き合っていく議会になると思われるんですが、新知事と向き合っていく議長として何かお考えはありますか。

○丸井議長

どなたが知事になられようが、議会として行うべきはしっかりとやっていくことになるわけですから、そんなに変化があるとは、私は思っておりません。議会は議会としてやるべきことを淡々と行っていただくであります。

○記者

家族構成と現在御自宅でお住まいになっている方を教えていただきたいのですが。

○丸井議長

家族構成は妻、子どもが3人。子どもはみんな今県外におります。帰ってこいと言ってもなかなか帰ってこないのが実情であります。上が娘2人で、この2人は当てにできません。仙台に息子がおりまして、これは連れて帰ってくることはできるだろうと考えております。

以上です。ありがとうございました。

○寺田副議長

このたび、第82代青森県議会副議長に御選任いただきました寺田達也でございます。

伝統ある県議会の副議長という大役を仰せつかり、身に余る光栄でございます。同時に、その重責を痛感し、身の引き締まる思いであります。

本県においては、少子化、人口減少など、重要かつ喫緊の課題が山積する中、県議会には県政における最高議決機関として積極的な議論を経て、民意を集約する役割が求められております。

今後は、微力ながら、青森県政発展のため、本県の直面する課題解決に向け、丸井議長をお支えしつつ、議長とともに公正かつ円滑な議会運営に努めてまいりたいと思っておりますので、皆様方の温かい御支援と御協力を賜りますように、よろしくお願いを申し上げます。

○記者

副議長就任おめでとうでございます。早速ですが、元々、福祉施設に勤めていらして、その中で政治を志すに至ったと伺っていますが、そのあたりの詳しいお話を聞かせてください。

○寺田副議長

政治に入ったきっかけは、五所川原市の成田守さんが市長選に出られる前、若い人たちが集まって政策の提言をする団体を作って、その中の1つに立佞武多を五所川原市の祭にできないかという運動をしたことがありました。その時に成田守さんが是非これを実現したいということで、それで市長選挙に出られて当選されて、その成田守さんから市議会議員に出てみろとだいぶ口説かれまして、それが政治に入るきっかけでありました。

○記者

福祉施設で障がい者やお年寄りの方と接したことも原点になっていると。

○寺田副議長

私の場合は障がい者施設で、30代でしたので、施設をやるのに一生懸命で、それで選挙に出て、施設、福祉に対してどうしようとか余裕ある時期ではなかったですね。

議員になってから、福祉に関してはいろんな思いを持ちましたけど、選挙に出るきっかけの時期としては、福祉をどうしたいとか余裕がなかった時期でした。

○記者

県議会議員活動の中で今まで一番印象に残っていること、取り組んだことは。

○寺田副議長

まず、歯と口の健康づくり8020健康社会推進条例。それを自分でいろいろ発言をして提案をして、それが実現した時はものすごい喜びに感じて、そこから始まって議会で提出議案になって条例になりました。自分が言い出したことがきっかけとなって実現するのはものすごい喜びになります。

今、一番頑張っているのは、やはり八甲田の風力発電ですね。私が一番会派の控室でうるさく言っている。一生懸命、改選前から言わせていただいている。そのことに今、力を入れています。

○記者

中止の方向で。

○寺田副議長

もちろんでございます。撤退をしていただきたい。

○記者

御挨拶の中で直面する課題がありましたが、一番の課題はどういうことでしょうか。

○寺田副議長

青森県で生まれる子どもの数はだんだん減っている。日本では80万人を切ったんですね。子どもが生まれるためにどうするか議論しないとだめで、若い人達が今の自分の人生に不安を持って生きています。私は感じているんですね。その不安を少しでも取り除く。国も、そして青森県としても、市町村も同じ方向を向いてそれぞれに合ったやり方で、そのことにしっかりと真剣にやらないともう手遅れになってしまう、そういう気持ちを持っています。

○記者

座右の銘は、「一期一会」と聞いていますが、それに込めた思いと政治とどうつながるのかを。

○寺田副議長

やはり選挙に出ていろいろ運動すれば、その時に会った人、出会いを大事にしていかなければならない。なかなか思うとおりにはいきませんが、その考え方で、これからもいろんな人との出会いを大切にしていきたいと考えています。

○記者

出会った人、出会った人の思いを政治につなぐと。

○寺田副議長

はい、もちろんでございます。

○記者

そういった意味での延長線上にもあるのですが、今回県議選での投票率があまり芳しくなかったというのは、県民と県議会との距離が離れているのがあると思うのですが、そのあたりは副議長としてどう取り組んでいきたいか。

○寺田副議長

県議会だけの問題ではないと思うんですね。今の統一地方選挙、首長選挙でも無投票が、ちょっと数字は忘れましたが、びっくりするくらいの数字だと記憶していました。政治にどう興味を持ってもらうか、選挙に出る人をどう増やしていくかを全体で考えていかないと。投票率も私は同じことだと思うんですね。興味を持ってもらえていない。政治家というものにも興味を持ってもらえていない。それが投票率につながっているのだろうなと。どういうことをすれば興味を持ってもらえるのかは大変難しい問題でありますけども、そのことにしっかり取り組んで、青森県だけでなく国でも全国的に取り組んでいかなければならない問題だと思っています。

○記者

県議会としてできることは、何かあるのでしょうか。

○寺田副議長

県議会としてできることは、県議会の様子をいろんな形で、学生の模擬議会とかやられてますよね。投票率はそれを続けていくことによって多少は上がることはあっても、無投票の選挙区が多いことは解決になっていくかというそれはそうでもないです。やっぱり投票率も上がる、出る人も増えていくという両方のことを考えていかなければならないと考えています。

○記者

家族構成は。

○寺田副議長

子ども2人はもう独立しまして、女房と2人です。あとミニチュアダックスが2匹。もうだいぶ老犬ですけども。いつも抱っこして、一緒に寝ています。

○記者

お子さんは、男2人。

○寺田副議長

はい、そうです。

○記者

カラオケで吉幾三さんを歌われるとか。

○寺田副議長

前はよく歌ってましたね。コロナ禍になってからは飲みに出ることもないし、歌うこともない。ずっと歌っていないと声も出ないんですね。今はもう歌う気がしない。歌って見たら、自分の下手さに悪酔いしてしまって、もう歌うのをやめました。

○記者

スポーツは、高校時代とか柔道を。

○寺田議員

はい。

以上です。ありがとうございました。